

1. 語る会の流れ

- ①各グループ（ABC）での話し合い
テーマ「データの活用」「最近の授業について」
- ②静岡大学教育学部教授 熊倉啓之先生の講話
テーマ「3から4へ」の発展的な活動

2. 各グループの話し合いで話題になったこと

- 【データの活用（1年生）、標本調査（3年生）】
- ・「データの活用」をすることによって、グラフや表などの見方が変わったり、生活がより良くなったりする実感をもたせたい。学校生活に繋がられるような教材を開発していく必要がある。
- ・実験なども行いたい。その際にはICTを活用していくのも良い。比較的良好な結果が得られる（標本調査）
- ・どんなデータを利用するのが大切（実際のデータを使うと実感が湧きやすい）
- ・ヒストグラフはICTも利用できるが、実際に自分で書くという作業も必要である。
- ・データを処理した結果(度数分布表、ヒストグラム、度数分布多角形、箱ひげ図、標本調査 等)を読み取る力を付けていきたい。

【データの分布（2年生）】

- ・箱ひげ図が身近なものになっていくと良い（新聞に掲載される、スポーツの分析等での利用 等）
- ・箱ひげ図に慣れていくことで、見方も深まっていくと言える。箱ひげ図の良さに触れて、読み取る力を付けていきたい。

【その他】

- ・1学期の単元、定期テスト、評価についての話題も各グループで話し合われた。



3. 静岡大学教授 熊倉啓之先生の講話内容

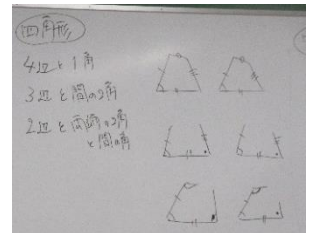
【三角形の合同条件について】

三角形の合同条件「3辺、2辺と間の角、1辺と両端の角」から発展させ、四角形の合同条件について考えてみようという課題であった。

4辺はダメ（正方形とひし形）ということから辺だけでなく、角度についても条件が必要であることが予想された。

「①4辺と一角 ②3辺と間の2角 ③2辺と両端および間の3角」という条件が導きだされた。

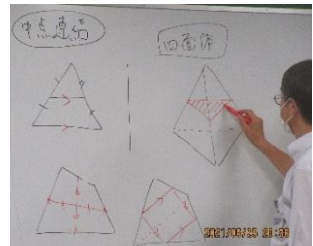
（凹四角形については考えないという条件のもと）



【中点連結定理について】

「四角形の中点連結定理を探してみよう」という問いかけにしてみると、生徒が自分で発見することになる。

さらに、四面体verに発展させることも面白い。（相似比、面積比に繋がる）



【三平方の定理について】

三平方の定理を四角形や四面体に発展させていく。「四面体の三平方の定理は何だ？」→直角をもった四面体→立方体の角の部分

辺が面になると考えると、4つの面の面積の関係は？「一番大きい部分の面の2乗=他の面の面積の2乗の和」となることが予想され、具体的な数字で計算し、成り立つことが理解できた。

☆三角形で成り立つことが四角形や四面体で成り立つことは言えるかなという問いの大切さ。問いの作り方の重要性（発展的だけど、面白い）

